

え ど じ だ い み ち  
江戸時代の道

江戸川区内の道は、鎌倉時代には鎌倉と下総しもうさ(千葉)、室町・平安時代には京都と下総、江戸時代には江戸(東京)と下総、常陸ひたち(茨城)をむすぶ街道が区内を通っていました。特に、江戸時代以降は江戸の街の発展とともに、人や物の往来が盛んになりました。

右図は、江戸時代の区内の街道を示した図です。街道の名前は、主に目的地の地名がつけられました。

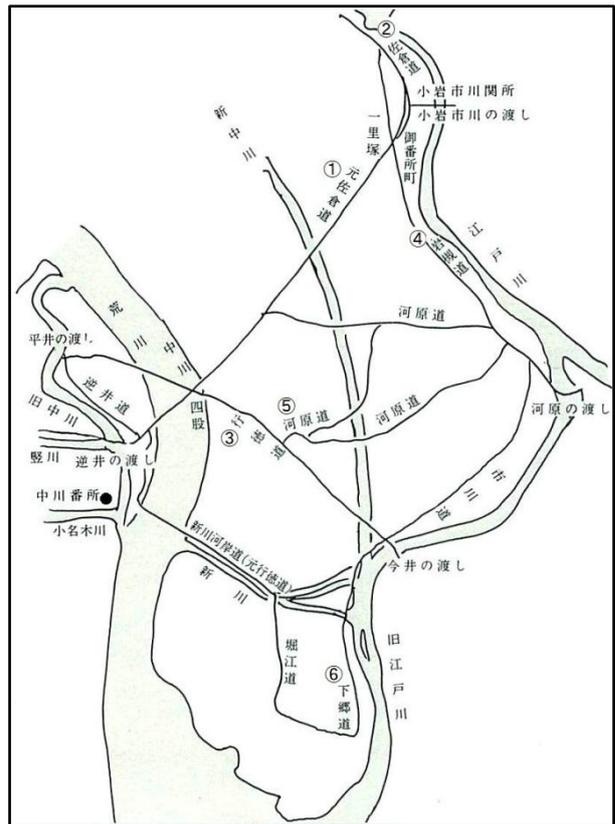
① 元佐倉道

解説シート「No. 3-2 千葉街道」を参照。

② 佐倉道

佐倉道さくらみちは、佐倉の堀田氏をはじめとする房総の諸大名の参勤交代路であると同時に、江戸中期以降は庶民の往来でにぎわった道でもありました。幕府も五街道に匹敵する街道として佐倉道を重要視していました。早くから小岩に関所がおかれたのもそのためです。

庶民の往来の代表的なものは、成田山への参詣でした。多くは江戸小網町ちやうから行徳船ぎやうとくぶねを利用したようですが、区内にも成田への道を示す道標どうひょうがあることから、陸路による参詣も盛んであったことがわかります。



江戸時代の交通図(川は現在のもの)

### ③ 行徳道

中川(旧中川)の平井の渡しから<sup>よつまた</sup>四股で元佐倉道と交差し、東小松川村、西一之江村、東一之江村を経て今井の渡しに達する道筋を「<sup>ぎょうとくみち</sup>行徳道」と呼んでいました。この道がいつ頃できたものかよくわかりませんが、古くは行徳塩の輸送路のひとつではなかったかと考えられています。

庶民はこの道を成田参詣路に利用していたと思われます。今井橋の架橋が明治45年(1912)であるため、行徳道はそれまで渡しに頼っていました。当時はすでに<sup>さかさいばし</sup>逆井橋、平井橋、江戸川橋(現市川橋)がありましたから、この架橋によって区の交通網が飛躍的に充実したといえます。

### ④ 岩槻道

戦国時代に<sup>いわつき</sup>岩槻への行徳塩陸送路としてひらかれたといわれています。河原の渡しから河岸を北上し、<sup>いよだ</sup>伊予田村、中小岩村の境を通過して上小岩村に入り、柴又、<sup>かなまち</sup>金町を通過して<sup>ことねがわ</sup>古利根川沿いに岩槻へ至る道です。

江戸時代中期以降は、北小岩の<sup>じおんじみち</sup>慈恩寺道の道標や佐倉道<sup>ごぼんしよまち</sup>御番所町にある道標などから、岩槻慈恩寺への参詣路としてもにぎわったことが知られています。

### ⑤ 河原道

江戸川の対岸、下総国河原村へ渡る河原の渡しが下篠崎村にありました。区内にはこの河原の渡しへ至る道がいくつかありました。元佐倉道から松本村を通る道と、行徳道から西一之江、<sup>やごうち</sup>谷河内を通過していく道が代表的なものです。両道の分岐点にはそれぞれ河原道を示す道標がありました。

### ⑥ 下郷道

下今井村から南下し、<sup>しんぞういん</sup>真蔵院(<sup>いかずち</sup>雷不動)前を通過して堀江道の東端に接合するのが<sup>しもごうみち</sup>下郷道です。葛西方面の新田開発にともなって整備された道と思われますが、東葛西一丁目路上にあった<sup>いかずちふどうみょうおう</sup>雷不動明王の道標(現在の所在は真蔵院境内)によって、その参詣路にもなっていたと考えられます。